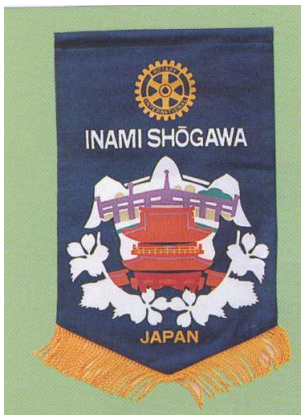


RI 第２６１０地区

井波庄川ロータリークラブ会報

2010-2011 年度 RI テーマ

「地球を育み、
大陸をつなぐ」

2010-2011 年度　No. 8

事務局　〒939-1635　富山県南砺市福光 7336-4 福光会館 3F
ふくみつ光房内　TEL　0763-53-1333ＦＡＸ0763-53-1334、　（レイ・クリンギンスミス会長）
inashorc@athena.ocn.ne.jp

2010-2011 年度　会長　山本武夫　、幹事　助田幸雄

例　会　記　録

第１５３８回例会

平成２２年９月１日(水)　井波文化センター

１．点　鐘　会長

２．君が代斉唱

３．ソング　四つのテスト

４．ビジター：西川雄策君・三吉外男君(南砺 RC)

５．月誕生祝：横山豊介会員(20 日)、浅田裕二会員(欠：24 日)、長谷川吉美会員(欠：25 日)



６．会長の時間：ビジターの西川さん、三吉さんようこそいらっしゃいました。さて、本日は、二百十日、昔から台風の時期といわれ、九月に入ると野分けなど、そういう言葉が使われだします。夏目漱石の著書に「二百十日」がありますが、これは漱石が熊本にいたときに書いたものと言われています。漱石といえば、「坊っちゃん」を題材にした松山が有名ですが、実は松山には 1 年しか住んでいなくて、熊本には 4 年住んでおり、ここで夫人と結婚、長女が生まれました。熊本には多くの漱石にちなんだ史跡があるそうです。昨年、熊本に行ったときに、もう少し勉強をしていれば、立ち寄ることができたのにと、思っています。

　さて、早いもので、私の年度になって、早２ヶ月も経ち、6 分の 1 が消化されました。この間、会員増強月間がありましたが、会長の至らないところで、増強いまだ 0 です。会長の不徳の致すところと、大いに申し訳なく思っております。今後、一生懸命やりますので、宜しくお願いします。

７．委員会報告①広報委員会（三谷委員長）：先読み情報、縦書から、１－２。博多人形師の話、川柳の秀逸作品から、「善人の仮面に無精髭がない」ひげも生える場所によっては、髭、髯、鬚となるそうで、日本語の奥が深いという話がありました。②出席委員会：20 名中 16 名出席（調整後 84.21%）

８．ニコニコＢＯＸ(本日 2 名　3000 円)

横山豊介会員：誕生祝いお礼。

山本会長：西川さん、三吉さん、ようこそ。高瀬先生、卓話代理で「スイス旅行記」楽しみです。木村さん、今回もまた、貴重な資料を有難うございました。

卓話「スイス旅行記」高瀬顕正会員

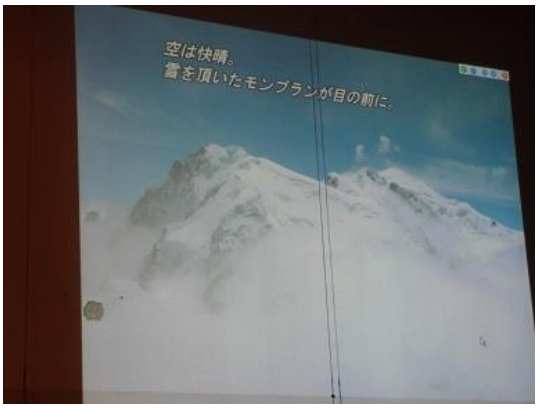




高瀬会員：日頃から、砺波の登山グループに属し年 50 回ほど、山登りをしている妻に、年 3 回ほどお付き合いしていましたが、今回機会を得まして、6 月（太子伝前の余裕のある時期）に「ヨーロッパ三大名峰と氷河特急」というパックにのって、スイスに行ってきました。【三大名峰：モンブラン・ユングフラウ・マッターホルン】卓話のピンチヒッターで、あわてて写真を整理しましたが、ご覧ください。

成田からヒースロー(ロンドン)経由で、スイスの玄関口、チューリッヒに着き、高速道路で、まずは、モンブラン(ヨーロッパアルプスの最高峰：4810m)に、向かいました。スイス・フランス国境を超え、登山口となる観光拠点のフランス、シャモニー(標高 1042m)に着きました。

途中、山すそには巨大な氷河も見られました。シャモニーからは、ケーブルで、一気に標高 3776m まで上り、そこからエレベーターで、3842m の展望台に着きます。当日は、山すそは曇り空で、ケーブルの窓の外は霧の中で、全く外の景色は見えませんでした。(後から、パンフなどを見ると、外が見えないほうがよかったような、すごい絶壁をケーブルが上ってきていました。多分命が縮んだでしょう。)それが、展望台に着き、そこからモンブラン山頂が待っていたかのような快晴の中、雪を頂いた優雅な姿を見せてくれました。



続いて、氷河特急に乗ってスイスのインターラーケンに、向かいました。天井の一部も見られるサンルーフ型の車両でした。(氷河特急は、7 月に脱線事故を起こし、死者も出ました。)駅の案内には、驚いたことに日本語でも表示してありました。いかに日本からの観光客が多いかということですね。インターラーケン(標高 567m)からは、スイス名峰(アイガー3970m、メンヒ 4107m、ユングフラウ 4158m)が眺められ、これらの観光拠点になります。



まずは、インターラーケンから、ベルナーオーバーランド鉄道というラウターブルンネン(標高 797m)行き登山電車に乗ります。山の岩肌に沿ったラウターブルンネンの町はいかにも登山客がここから出発するというような気配のある町でした。ここで、次は、ヴェンゲルンアルプ鉄道という電車で、クライネシャイデック(標高 2061m)に向かいました。さらに、ユングフラウヨッホ行き電車に乗り換えます。この電車は、シュトルプ式ラックレールと呼ばれる、レールの間に溝の切ってあるもう 1 本のレール(遊

園地のジェットコースターの昇りにあるもの)があって、電車の底の歯車ががっちりかみ合うようになっています。この電車は、ほとんどトンネルで、スイスはこの素晴らしい名峰を観光してもらおうと、第２次世界大戦前に作られています。途中１か所だけ、展望台がある場所で停車しました。そこからは、ほんの少し先に、アイガーやメンヒの頂が見られました。再び電車に乗って、ヨーロッパ最高地点(3454m)にある終点、ユングフラウヨッホ駅に着きました。そこからは、氷河の中のトンネルを歩き、展望台に上るエレベーターに乗ります。ちょうどこの時は、展望台からは快晴のスイス名峰が手に取るような近さで見ることができました。下界は曇りで、小雨模様でしたが、山頂付近は快晴で、大変運が良かったです。





次に、スイスアルプスの女王、マッターホルン(4478m)に向かいました。観光拠点のツェルマットは、マッターホルン見物とトレッキング目的で世界中から多くの人が集まります。町の乗り物は、馬車と電気自動車のみということで、環境にも町全体で配慮しています。ツェルマットから、展望台のあるゴルナーグラート(3089m)まで、電車に乗りました。はじめは曇り空でしたが、次第に霧が立ち込め、終点ではみぞれ模様でした。展望台(3090m)からは、全く何も見えませんでした。やむなく、そのまま電車で始発駅まで、逆戻りしました。午後はフリータイム。当日はサッカーW 杯の日本オランダ戦の日。多くの観光客は、テレビ観戦する中、妻と１時間ほどの予定でトレッキングに出ました。(実際には 4 時間程度になってしましましたが・・・)

小雨の中を傘をさして歩いて行くうちに、雨が上がりました。多くのトレッカーとすれ違い、笑顔で「ハロー」と挨拶しました。トレッキングコースの道端には花がいっぱい今が満開とばかりに咲き誇っていました。また、少し上ると羊や牛が、カランコロンと“カウベル”つけて花や草を食べていました。そのうち、年配のトレッカーに会い、英語で会話をしたら、もう少し行くとマッターホルンが見える場所に出ると、親切に今いる場所を地図で教えてくれました。そこから、何十分か歩いて、見上げるとなんと、そこにはかすかにマッターホルンが・・・必死にカメラに収めました。ほんの一瞬ではあったが、雲間からその姿を見せてくれました。ほっとした足元には、きれいな青い花が咲いていました。　(資料・スライド・卓話を抜粋：山本)

